


2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 島根県 】

学校名【 益田市立美都中学校 】

1 実践テーマ	I・V
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生徒 27名, 保護者, 地域の方 約70名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (体育祭 「やってみよう! 東京2020パラリンピック種目」) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○パラリンピック競技について話を聞いたり体験をしたりすることで、パラリンピックの理念や価値を学ぶ。 ○学んだことを体育祭で保護者や地域に発信することで、学びを深めるとともに東京2020大会への機運を高める。
5 取組内容	○事前学習として、全校集会を開き「I'm POSSIBLE」を活用して、パラリンピッククイズをしたり、リオパラリンピック大会DVDを視聴したりすることで、これからの活動への興味・関心を高めた。 ○パラリンピック競技（ボッチャ・ゴールボール）について、それぞれ講師を迎えて全校で学ぶ機会を作った。  ○体育祭では「やってみよう! 東京2020パラリンピック種目」というコーナーを設け、赤組、青組がそれぞれボッチャ班、ゴールボール班に分かれ、体育館の半面を使いながら保護者や地域の方々に実技を交えて競技の進め方を紹介し、一緒にプレーした。

	
<p>6 主な成果</p>	<p>○パラリンピック競技体験では、ボッチャ、ゴールボールを知らない生徒がほとんどだったが、講師の方から説明を受けたり、実際に競技を体験したりすることで、楽しみながら競技内容を理解していった。</p> <p>○事後の感想等を見ると、講師からの「競技を通じて障害やバリアフリーへの関心を高めてほしい」「障がいのある人に対して一歩踏み出して関わり、相手のことを考えたサポートが大切である」との思いもしっかり受け止めていた。</p> <p>○体育祭では、生徒会、色組の3年生が中心となって、説明や体験の流れを考えることで、生徒の主体性が発揮されるとともに、生徒と保護者・地域住民が競技を楽しみ、共生社会への意識を高めた。リーダーの3年生は「参加者に楽しんでもらえてよかった。競技体験を通してパラリンピックへの関心が高まればうれしい。」という感想をもった。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○競技を学ぶ際には縦割り班を作り、3年生が中心になって活動を盛り上げ、1、2年生と一緒に楽しく学べる雰囲気を作った。</p> <p>○生徒主体の活動となるよう、生徒の手による「学んだことの発信」に力を入れた。体育祭に参加している保護者や地域の方など幅広い世代の人にどう説明したら競技内容や競技のポイントが短時間で伝わるか、考える時間を大切にした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○障害者スポーツの指導者が限られているので、講師派遣については早めに関係機関に連絡を取り、調整することが必要である。</p> <p>○機運の醸成には継続した働きかけが大切なので、一連の取組内容や生徒の様子を学校だよりや公式フェイスブック等でも保護者や地域へ伝え続ける必要がある。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○総合的な学習の時間の取組「地域ボランティア活動」で、ボッチャなどの競技を地域の方と一緒にする。</p> <p>○来年度7月初旬に予定している東京修学旅行に向け、パラリンピックについて調べ学習したことや東京に行って分かったこと、考えたことなどを保護者や地域に向け発信する。</p>